

11 教員組織

進捗状況報告

○e-Learningの整備
e-Learningの2008年度予算は凍結され、大学として検討を継続することとなっている。
○組織拡充の問題
人員増は実現されていない。
大学の研究所統廃合は進んでおらず、学長室との話し合いを実施している。

学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

e-Learningの実験（2003-2005のサイバーキャンパス整備事業）そのものが、教務課の下で実施されている。これについては、教務課にて点検・評価されるべきである。
時代に即した情報リテラシーという点については、学部横断的な共通のリテラシーというくくりが現実的かといったことなど、情報教育のあり方についての根本的な調査、検討が必要である。現行組織でできる限りの検討を実施しているものではあるが、コーディネータ1名体制では、履修申し込み状況と履修状況からの毎年の修正が精一杯である。
現在、情報システム室との業務の区分けを含め検討中であり、2008年度中には大学に対して提案・要望を提出する予定である。

学内第三者評価

2008年にはe-Learningの予算が凍結されているが、それまでの実験結果について自己点検・評価することが望まれる。
組織の問題について、時代に即した人文・社会系の情報リテラシー教育のあり方を検討し、その結果にもとづき提案することが期待される。
なお、記載内容は事実の列挙にとどまっておらず、自己点検・評価活動の趣旨からすると十分とはいえない。自身が掲げた目標に向けた活動を行っているのか、活動により掲げた目標がどの程度達成されているのか、活動により浮き彫りになった問題点があるのか、といったことを率直に見直し、Plan-Do-Check-Actionのサイクルをまわしていくことが求められる。